



2024年は円安基調が続いたことと、2021年から少しずつ上昇傾向にあったエネルギーコストの高騰や、原材料などの仕入れ価格の上昇がさらに顕著になったことで、結果として物価の上昇傾向が長く続くことになり、消費者の皆さまの購買行動や購買意識にも変化がありました。

このような環境の中、当社におきましては、生活提案型食品スーパーの実現を目指し、「基本4項目(フレンドリーサービス、クリンリネス、鮮度と味の追求、豊富な品揃え)の徹底」、「商品開発」、「デリカテッセンの商品力と販売力の強化」に取り組んでまいりました。マーチャндаイジング面では、グループのプライベートブランドである「セブンプレミアム」商品の積極的な販売を行うとともに、生鮮食品の価値ある商品の提案、デリカテッセンの新しい商品開発など、生鮮やデリカテッセンでの圧倒的な差別化に取り組んでまいりました。

2015年に国連サミットで採択された「持続可能な開発目標(SDGs<sup>※1</sup>)」を推進する世界の動きは徐々に広がり始め、多くの民間企業や自治体、学校、病院などでも、それぞれがSDGsについて取り組んでいる内容を開示しています。当社におきましても、SDGs達成のための取り組みを企業の事業継続のために重要な位置づけと捉えて、企業価値の維持・向上を目指すため、お客様やお取引先様、地域社会全体のご満足につながるよう積極的に取り組んでおります。また、株式会社セブン&アイ・ホールディングスでは、2019年に『GREEN CHALLENGE 2050』を宣言し、「CO<sub>2</sub>排出量削減」「プラスチック対策」「食品ロス・食品リサイクル対策」「持続可能な調達」の4つのテーマを特定し、それぞれに対して目標値を設定。グループ各社横断で環境負荷を低減するために取り組んでおります。ヨークベニマルでも、この環境負荷低減という取り組みを通じて、“豊かで持続可能な社会”の実現を目指してまいりたいと考えております。

また、当社は社内組織として、情報管理委員会、リスクマネジメント委員会、CSR統括委員会という三つの委員会を設けて、サステナビリティ、コンプライアンス、情報セキュリティ等、企業姿勢が問われるテーマやあらゆる社会課題について、計画立案と実行、その検証等を行いながら、コーポレートガバナンスの強化を図っています。

ヨークベニマルは、地域に根ざすスーパーマーケットとして、地域のお客様の毎日の楽しい食卓を守るため、今後も地道な活動を通じて、社会貢献・地域貢献を続けてまいりたいと思います。

※1…地球温暖化や気候変動、経済格差による貧困等、深刻化している地球の環境や社会情勢を問題解決するための施策として掲げられた17の目標と169のターゲットからなる



株式会社ヨークベニマル 代表取締役社長 大高 耕一路

## CONTENTS

|                  |  |              |                             |
|------------------|--|--------------|-----------------------------|
| ごあいさつ            | 1  | 重点課題 4       | 多様な人々が活躍できる社会を実現する          |
| 経営理念・ヨークベニマル企業倫理 | 2  | 重点課題 5       | グループ事業を担う人々の働きがい・働きやすさを向上する |
| セブン&アイグループの重点課題  | 3  | 重点課題 6       | お客様との対話と協働を通じてエシカルな社会を実現する  |
| 重点課題 1           | お客様とあらゆる接点を通じて、地域・コミュニティとともに住みやすい社会を実現する | 重点課題 7       | パートナーシップを通じた持続可能な社会を実現する    |
| 重点課題 2           | 安全・安心で健康に配慮した商品・サービスを提供する                | ヨークベニマルの店づくり | 20                          |
| 重点課題 3           | 地球環境に配慮し、脱炭素・循環経済・自然と共存する社会を実現する         | 会社概要・編集方針    | 21                          |